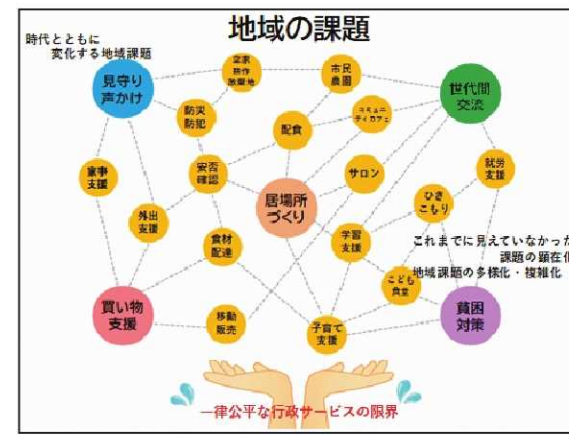


「協働」のみんなの決めごと
 「協働」に取り組む際の大切な考え方



① 多様な主体による対等な立場での「対話」を通じた地域活動の協力・連携・協働の推進
 ② 老若男女問わず、すべての地域住民による地域活動への参画促進
 ③ 地域への「義務」としてのかわりから、「楽しんで」かわかることへの意識醸成

取組目標 2
 対話と協働による地域づくり
 —あたま(思考)も体(ネットワーク)も柔らかく—

「支える」ではなく、多様な主体がお互いを「支え合う」地域活動の推進
【重点的に推進すべき事項】
 ● 地域ぐるみの高齢者などの生活支援や子育て支援などの「支え合い」活動の推進

取組目標 3
 多様な主体が「支え合う」地域社会の実現
 —YOSANOのあちこちで助けてとつばやく—

【重点的に推進すべき事項】
 ● 集合したり、話し合えたりする場づくりの推進
 ● 得意分野の知識や資格等をいかし、活躍できる場づくりの推進
 ● 若者や女性の参画機会創出の推進
 ● 個人や団体などの「やりたい」思いを支援し、実現できる仕組みづくりの推進
 ● 人と人、人と場所が「つながる」「つなげる」仕組みづくりの推進

取組目標 4
 デジタルの活用
 —思いを飛ばそう、デジタル化—

デジタルの活用による地域活動の柔軟性の向上と効率化の推進
【重点的に推進すべき事項】
 ● SNSやWEBミーティングなどを活用した会議や対話、交流機会創出の推進
 ● スマートフォンを活用した情報発信、情報共有の推進
 ● デジタルを活用した地域の課題解決の推進

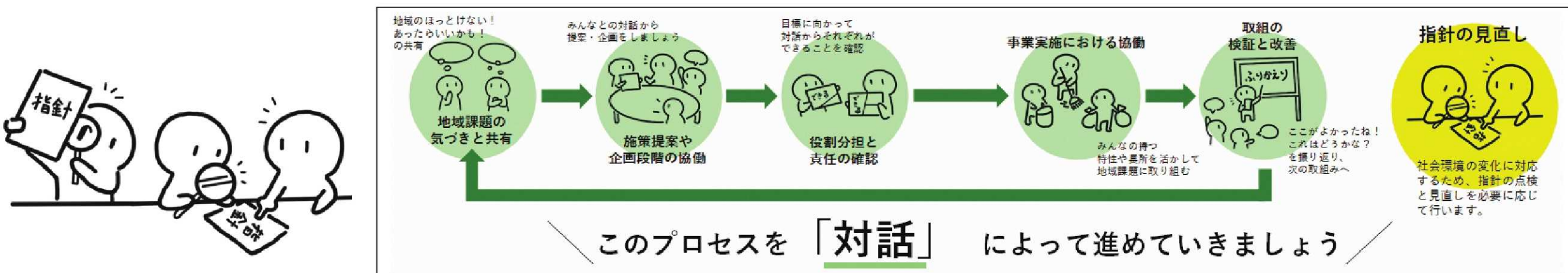
3
 地域課題の解決に向けた取り組みを伴走する
 ……【行政】

行政は、自治会や地区公民館、地域活動団体など、それぞれの得意分野における強みをいかした地域課題の解決に向けた活動が持続可能なものとなるよう、しっかりと伴走します。

「協働」によりめざすまち

地域資源を効果的に活用し、町民の皆さんが住み心地のよさを実感できるまちづくりを進めていくためには、「行政による公共サービスの提供」に「多様な主体が得意分野で公共的なサービスを担当」という考え方も加えて、与謝野町にかかわる一人ひとりが地域のことを「自分ごと」として考え、ともに知恵を出し合い、地域の実情に合ったきめ細かな取り組みを推進していくことが大切です。

—「誰かがやっている」まちづくりから「わたし(たち)にもできる」まちづくりへ
 住み慣れた地域が「いつまでも暮らしやすい、これからも住み続けたい」とみんなが感じられる地域社会、「一人ひとりの「志」や「能力」を引き出し、つないで協働するパートナーシップで『住民が主人公となるまち』をめざしましょう。



● 地域の人材育成や活動拠点、中間支援団体などの立ち上げ支援
 ● 協働に関する相談・調整・情報共有・コーディネートなどの支援

このプロセスを「対話」によって進めていきましょう